



■ 肥薩おれんじ鉄道商品化許諾済

ANRW-73031B / 本編 146分 4,950円 (税込)
ANRW-73030 / 本編 146分 3,981円 (税込)

■ 撮影日 / 2021年12月6日(月) 晴
■ 区間 / 川内(10:23発) ⇒ 八代(12:57着) HSOR-100形

■ 本編の概要 ■

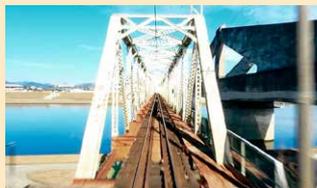
肥薩おれんじ鉄道は、九州新幹線の新八代から鹿児島中央間の開業に伴い、JR九州から経営移管をされた八代から川内駅までの第三セクターの鉄道会社です。川内を発車し川内川を渡ると並走していた九州新幹線と別れ、山間部を抜けると東シナ海に沿って走る。南国らしくフェニックスの木なども見える。阿久根からは内陸部に入り、冬晴れの穏やかな風景の中を快走する。高尾野ではEF81が牽引の貨物列車と交換もあり、米ノ津川を渡り、車両基地が見えてくると九州新幹線と接続する出水に着く。新水俣駅では再び九州新幹線と接続するが、ここはかつての初野信号場であったのが、一夜にして新幹線停車駅に昇格した。複線区間となる津奈木～湯浦で峠を越え、たのうら御立岬公園を出て、トンネルを抜けると八代海が広がり、天草を遠望しながら走る。球磨川を渡り、肥薩線が左から並走してくると終点の八代に到着する。

◆ 展望本編の主なキャプチャ画像 ◆

■ 制作：株式会社イルージョン



川内を発車。しばらく右側を九州新幹線が並走する。



川内川を渡ると、新幹線とは離れて川内市街地を走る。
(川内～上川内)



穏やかな東シナ海を眺めながら、北上して行く。(草道～薩摩高城)



かつて特急列車やブルートレインの有名撮影地だった区間を走る。
(西方～薩摩大川)



JNCラッピング車とすれ違う。昼間の列車はすべて単行である。
(牛ノ浜)



阿久根～折口にある赤瀬川信号場。長い有効長が鹿児島本線時代の栄華を偲ばせる。



3セク化後も、JRから貨物列車が直通してくる。撮影時はEF81が活躍していた。(高尾野)



九州新幹線と接続する出水。車両基地も併設されている。



境川を渡る。名前のとおり鹿児島と熊本との県境となる。
(米ノ津～袋)



水俣では、「くまもんラッピング列車2号」との顔合わせが見られる。



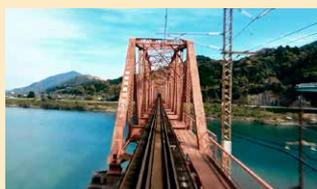
津奈木～湯浦は複線区間だ。この区間は峠越えとなり、エンジン音も高くなる。



線内で最長の佐敷トンネル(1,501m)に入る。
(佐敷～海浦)



天草を遠望しつつ、美しい八代海の海岸線を走っていく。
(上田浦～肥後二見)



赤いトラス橋で球磨川を渡る。川面の深緑色とのコントラストが鮮やか。(肥後高田～八代)



左からJR肥薩線が接近し、並走してくると、まもなく八代だ。



終着の八代に到着。穏やかな冬晴れの日の旅であった。